

10 外部資金を活用した事業

(1) グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト

- 今期予算：900,000 円

【提出された実施報告シート①】

主催団体名	特定非営利活動法人もりの学舎自然学校
イベント タイトル	げんきの森づくり その6 ～こどもの森フェス 2019～
開催日	2019年5月11日(土曜日) 10:00~14:00 (活動実施時間数 計4時間)
開催場所	愛・地球博記念公園 親林楽園及びもりの学舎
イベント概要 (300字程度)	<p>今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。</p> <p>「げんきの森づくり その6」は、これまで手入れや調査を行ってきた森を活用し、自由参加形式で、森のスタンプラリーやクラフト、ハンモック体験などを行った。あわせて、事前申し込み形式で「こども森アート」というワークショップを開催し、森のなかにアート作品を製作し展示した。今回の企画は、手入れを行ってきた森に大勢の人に訪れてもらい、森で過ごす楽しさを体験してもらい、森にまた訪れたいと思ってもらうことを目的とした。</p> <p>9:30 こども森アート受付開始 10:00 こどもの森フェスオープニングあいさつ 10:05 ・スタンプラリー、クラフト、森あそび(ハンモック、自然あそび、生きもの探し) スタート ・こども森アート開始 森の素材を使った森の生きものアートの制作開始 12:20 こども森アート終了 13:55 こどもの森フェスクロージング 14:00 終了</p>
活動内容 (300字程度)	<p>当日の活動内容、子どもの様子・言葉・エピソードなど400字を目安に記載ください</p> <p>今回のげんきの森づくりでは、これまでの森づくりのまとめとして、手入れ、調査を行った森での遊び体験を行った。手入れをした森を巡るスタンプラリー、森でとれる木の実を使ったクラフト、森でのんびり過ごしたい人むけのハンモック体験、インタープリターといっしょに遊ぶ自然あそびや生きもの探しを、自由参加で行った。スタンプラリーでは1kmほどの距離を頑張って歩いてまわっていた。</p> <p>事前募集の「こども森アート」では、森の手入れで出た木材を使用して、森の生きものを作る活動を行った。子どもたちがグループに分かれ、アイデアを出し合って進めていった。参加者の大人が、子どもたちでは切れない太い木や硬い木への釘打ちなどを行い、子どもたちに負けないぐらい集中して、作品の製作を行った。製作した作品は、森に展示し、来場者の目を楽しませている。</p> <p>■成果 こども森アートで製作した作品 5体</p>
参加者 からの声	<p>アンケートの内容などから、拾い出してください。箇条書きでも結構です。文字制限はありませんが、5つ以上の感想をご紹介ください。</p> <p>子ども ・いろいろなものをみんなで話して工夫して作ったことが面白かった ・木の枝でいろんなことをしたいです！ ・松ぼっくりの人形を探すのが楽しかった</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンモック手作りで！家でもやってみたい ・スタンプラリーが楽しかった <p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思っていたより、たくさんの動物が生息しているとのことでおどろきました ・木と触れ合うのは気持ちが落ち着いた ・普段じっくり見ないもの、触れないものに注目しながら、参加でき楽しかったです 			
プログラムを振り返って (500字程度)	下記項目に触れていただき、プラスの結果や前向きなコメントを中心にお願いします。			
	<p>1.子どもたちの様子（どのような気づきが得られたか等）。</p> <p>こどもの森フェスでは、スタンプラリーで森を歩く楽しさに、ハンモックで森でのんびりすることの良さに気づいてもらった。こども森アートでは、材料が限られていても、自然のものの形や色を活かして、製作できることに気づけた。作る過程で、樹種によって木の硬さなどが違うことに気づいた。また大人と協力して活動することにも楽しさを感じていたようだ。</p>			
	<p>2.様々な関係者との連携・協働により得られた成果。</p> <p>一緒に体験内容を考えていくことで、専門的すぎる内容ではない体験が作れたので、ボランティアのみなさんも、参加者、スタッフとよくコミュニケーションをとり、参加してもらえた。</p> <p>3.その他の感想。</p> <p>子どもたちだけでなく、大人も森や自然に関わるが必要だ。保護者のかたも自然のものを使って、製作することに集中し、自然に触れる感覚を得ることで癒やされていた。</p>			
参加人数	一般参加者	人数	合計	
	子ども(乳幼児から中学生まで)	100+12名	295名	
	子どものご家族または保護者など	161+12名		
	その他の参加者(学生、地域住民など)	10名		
	協働関係者	人数	合計	
	実施NPOのスタッフ数	8名	16名	
	東京海上日動「社員」ボランティア数	5名		
	その他のスタッフ数(協力者・協働先を含む)	4名		
	イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。			
	東京海上日動「代理店」ボランティアの有無	なかった		
	東京海上日動「代理店」一般参加者の有無	なかった		
	上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)	あった		
公益財団法人愛知県都市整備協会：フィールドの使用				
企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度の達成度	企画シートで立てた成果目標	参加者に森に関わりたいという気持ちが芽生える		
	企画シートで立てた成果指標	アンケートでの次回への参加希望の数 80パーセント		
	目標・指標からどんなことが達成できたか	指標は、アンケートの7では、75%が他の人を誘う気持ち、8では93%が参加意欲を持ってきている。森や自然に関わることにしている意欲を高めることができた。単発の関わりではなく、機会があれば森に関わりたいと思ってくれた。		
	より成果を上げるための工夫点	単発ではなく継続して関わる場所を作ること。		

【提出された実施報告シート②】

主催団体名	NPO 法人やまぼうし自然学校
イベント タイトル	初夏の森を楽しむデイキャンプ～菅平の夏の始まりを探そう・楽しもう～
開催日	2019年6月8日(土曜日) 9:30~15:00 (活動実施時間数 計5時間)
開催場所	菅平高原ファミリーオートキャンプ場
イベント概要 (300字程度)	<p>今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。</p> <p>少し夏の気配を感じる高原の森で、デイキャンプを楽しもう。 火をおこして、自然のエネルギーでご飯を作ろう。</p> <p>※雨天のため会場変更し、予定の内容と変更あり 8:00 スタッフ集合、準備 9:15 受付開始 9:30 開始、主催者あいさつ、協賛者あいさつ 関係団体紹介 アイスブレイクゲーム 10:00 火おこし/お昼作り 途中お花摘み散策 お昼、片付け 13:00 色々な緑探し 13:30 クラフト作り開始 竹パン作り 集合写真 あいさつ アンケート 14:30 解散</p>
活動内容 (300字程度)	<p>当日の活動内容、子どもの様子・言葉・エピソードなど400字を目安に記載ください</p> <p>※ 「です、ます」調でお書きいただけますと幸いです。</p> <p>心配していた程雨は降らないものの、濃霧や寒さでお住まいの地域との差に驚かれていました。新緑の清々しいフィールドで、ご参加された皆さまとは有意義な時間を共有することができました。じゃんけんゲームからスタートし、初めてのお友だちとも徐々に仲良しになりました。続いてマイギリ式の火おこしを行いました。苦労しながらもお昼作りの火を無事に付けることに成功しました。お昼のメニューは炊き込み御飯カレー味&トマト味、特製味噌汁、お花畑寒天とみんなで協力して美味しく作る事ができました。途中、デザートのお花畑寒天に入れるお花探しに出かけ、食べられるお花を5種類程採集しました。 食後はつかの間の晴れ間を使って、「緑いろ色探し」色々な緑色を探しました。最後にお土産フォトフレーム作りで素敵な作品に仕上がりました。どんな写真を飾るのでしょうか？</p>
参加者 からの声	<p>アンケートの内容などから、拾い出してください。箇条書きでも結構です。文字制限はありませんが、5つ以上の感想をご紹介ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山がみどりだった。 ・ 嫌いなキノコを残さず食べました。 ・ 花が食べられることを知った。 ・ 白樺が燃える木だと改めて知った。 ・ ゲームとかしないで過ごす1日を増やしたいです。
プログラムを振 り返って (500字程度)	<p>下記項目に触れていただき、プラスの結果や前向きなコメントを中心にお願いします。</p> <p>1.子どもたちの様子(どのような気づきが得られたか等)。 このような機会が日常であると良いと思った。 ゆっくりと過ごす時間と場所と仲間が子ども成長には必要。</p> <p>2.様々な関係者との連携・協働により得られた成果。 最終年と言うことも有り、イベントの流れなど熟知して頂けているので、</p>

	<p>当日の準備、実施、片付けがスムーズに行うことができた。</p> <p>3.その他の感想。 毎回同じですが、もっと多くの方にこのプログラムを届けたい。 そのための工夫と努力が必要と感じています。 子どもの活動には親の理解が必要で、親の理解を得られるような PR が必要と 思います。 新たな価値の創出「野外活動や自然活動」に必要なお金を出す文化を。 今回までは無料で提供できるが、お金を払ってでもすべき活動へとレベルアップをし、新たな価値を生み出して行きたい。</p>		
参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	14名	25名
	子どものご家族または保護者など	11名	
	その他の参加者(学生、地域住民など)	0名	
	協働関係者	人数	合計
	実施 NPO のスタッフ数	9名	13名
	東京海上日動「社員」ボランティア数	4名	
	イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。		
	東京海上日動「代理店」ボランティアの有無	なかった	
	東京海上日動「代理店」一般参加者の有無	なかった	
	上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)	あった	
	日本 NPO センター 1 名、コ・クリエーションデザイン 1 名、 中部 EPO 2 名、一期会 1 名		
企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度の達成度	企画シートで立てた成果目標	参加者が、自然や生きものと自分のつながりを知る	
	企画シートで立てた成果指標	探した生物の数 5 個	
	目標・指標からどんなことが達成できたか	工作作品を持ち帰ってもらう事ができた。 森に興味をもってもらうことができた。	
	より成果を上げるための工夫点	伝える技術 エンターテイメント 参加者に興味深く聞いてもらう工夫	

【提出された実施報告シート③】

主催団体名	NPO 法人やまぼうし自然学校		
イベントタイトル	秋の森を楽しむデイキャンプ ～秋の気配を探そう、感しよう～		
開催日	2019年9月28日(土曜日) 9:30~15:00 (活動実施時間数 計5時間)		
開催場所	菅平高原ファミリーオートキャンプ場		
イベント概要 (300字程度)	今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。		
	<p>秋の高原で、秋探しとデイキャンプを楽しもう。 火をおこして、自然のエネルギーでご飯を作ろう。</p> <p>8:00 スタッフ集合、準備 9:15 受付開始 9:30 開始、主催者あいさつ、協賛者あいさつ</p>		

	関係団体紹介 アイスブレイクゲーム、参加者自己紹介、集合写真 10:00 秋のつながり探し 10:30 火おこし／お昼作り お昼、片付け 13:30 クラフト作り開始 14:30 終わりの会 あいさつ ふりかえり アンケート 15:00 解散			
活動内容 (300字程度)	夏の会場と同じキャンプ場で実施しました。前回ご参加頂いた方には季節の変化を感じて頂けたのではないのでしょうか。じゃんけんゲームからスタートし、初めてのお友だちとも徐々に仲良しになりました。続いて「秋」と思うものを1つ各々で探して発表してもらいました。続いてグループになって「秋の森のつながり探し」を実施しました。色々なつながりを探して来てくれました。続いてマイギリ式の火おこしを行いました。苦労しながらもお昼作りの火を無事に付けることに成功しました。お昼のメニューは鶏肉とたっぷり野菜のダッチオープン焼き味噌ソース、野菜たっぷりスープパスタ、焼きリンゴと焼きカボチャのデザートでした。みんなで協力して美味しく作ることができました。最後に竹とんぼと小枝の鉛筆ペンダントを作りました。みんな素敵な作品に仕上がりました。			
参加者 からの声	<ul style="list-style-type: none"> ・ また来たい！！とすぐでてるコトが楽しかった証拠ですね！ ・ 子どもが山で楽しく遊べることがわかりました。 ・ 知らないお花が沢山あって楽しかった。 ・ 子どもが普段嫌がって食べないものを沢山食べてくれたのでまたダッチオープンで料理をしてみたいです。 ・ 山にはいろいろなものがあることが分かった。 			
プログラムを振 り返って (500字程度)	1.子どもたちの様子（どのような気づきを得られたか等）。 このような機会が日常であると良いと思った。 ゆっくりと過ごす時間と場所と仲間が子ども成長には必要。			
	2.様々な関係者との連携・協働により得られた成果。 最終年と言うことも有り、イベントの流れなど熟知して頂けているので、当日の準備、実施、片付けがスムーズに行うことができた。			
	3.その他の感想。 毎回同じですが、もっと多くの方にこのプログラムを届けたい。 そのための工夫と努力が必要と感じています。 子どもの活動には親の理解が必要で、親の理解を得られるようなPRが必要と 思います。 新たな価値の創出「野外活動や自然活動」に必要なお金を出す文化を。 今回までは無料で提供できるが、お金を払ってでもすべき活動へとレベルアップをし、新たな価値を生み出して行きたい。			
参加人数	一般参加者	人数	合計	
	子ども(乳幼児から中学生まで)	10名	16名	
	子どものご家族または保護者など	6名		
	その他の参加者(学生、地域住民など)	0名		
	協働関係者	人数	合計	
	実施 NPO のスタッフ数	3名	7名	
	東京海上日動「社員」ボランティア数	4名		
	イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。			
	東京海上日動「代理店」ボランティアの有無			なかった
東京海上日動「代理店」一般参加者の有無			なかった	

	上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)	あった
	中部 EPO 2 名、一期会 1 名	
企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度の達成度	企画シートで立てた成果目標	参加者が、自然や生きものと自分のつながりを知る つながり探しで実感してもらえた
	企画シートで立てた成果指標	探した生物の数 5 個 キノコや木の実、花や葉っぱ、バッタ
	目標・指標からどんなことが達成できたか	工作作品を持ち帰ってもらう事ができた。 森に興味をもってもらうことができた。
	より成果を上げるための工夫点	伝える技術 エンターテイメント 参加者に興味深く聞いてもらう工夫

【提出された実施報告シート④】

主催団体名	小原 E C O プロジェクト
イベントタイトル	小さな山里の「夏・探検隊」
開催日	2019 年 7 月 1 3 日(土曜日) 10:00~15:00 (活動実施時間数 計 5 時間)
開催場所	福井県勝山市北谷町小原
イベント概要 (300 字程度)	今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。 親子で楽しむ自然体験(川遊び(生物調査)、アウトドアクッキング、自然の豊かさ・恵み、命の大切さを感じてもらう) 10:00 スケジュール説明、連絡等 着替え 10:30 14:45 プログラム終了(着替え・片付け)
活動内容 (300 字程度)	当日の活動内容、子どもの様子・言葉・エピソードなど 400 字を目安に記載ください 自然体験活動：川遊び(川辺の生物観察)、魚つかみ(命の学習) 薪割り(昼食づくり燃料のカーボン・オフセット)、ドラム缶風呂 どれも良い経験を得た様子 ・生き物を飼いたい。写真を撮って調べたい ・いっぱい自然の中で遊びたい ・自然ではすぐ癒されて頭を使うことで暮らしていける 昼食(アウトドアクッキング)：ピザづくり 羽釜ご飯 イワナの塩焼き なめこ汁 こちらで準備したものもあったが ピザづくり、いわなの塩焼きは体験として実施した。 ピザ、羽釜ご飯は好評でした。(エンドウご飯、白米) 薪づくりでのカーボン・オフセット 50 キログラム(炭・薪の使用量) 生物調査結果(別添) 相関指標から水質は良好である
参加者からの声	アンケートの内容などから、拾い出してください。箇条書きでも結構です。文字制限はありませんが、5 つ以上の感想をご紹介ください。 ・イワナを捕まえ自分でさばき、櫛をさし「かわいそう」と言いながら姿をみて命をいただく大切さを知ってもらうことができました。 ・虫遊び環境教育面について指導者がキチンと準備され有効であった。スタッフの知識が十分であり申分ない。 ・いろんな人が集まることによって大きな活動のエネルギーになることを再確認できた。 ・普段の生活では体験できない場所、虫をたくさん見つけることができた。自然や命の大切さに

	<p>気づかされました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の豊かさ（厳しさ）、命の大切さを感じられるような活動を今後もさせたい。 ・友達に自然がどれだけ面白いかわ伝えたい。 ・ピザづくり楽しかった。釜で炊いたごはんを初めて食べた。川がきれいでもた来たい。 			
プログラムを振り返って (500字程度)	<p>下記項目に触れていただき、プラスの結果や前向きなコメントを中心にお願いします。</p>			
	<p>1. 子どもたちの様子（どのような気づきが得られたか等）。</p> <p>たくさんのプログラムを用意し、そのうちの何れかでも興味を持ってもらえればと思っていたがすべてにおいて子供たちはどれも満足したように感じられた。</p> <p>予想以上に現代っ子は野生的だった。親が大人たちが危ないという理由だけで自然から遠ざけていたのか？</p> <p>2. 様々な関係者との連携・協働により得られた成果。</p> <p>体験指導での外部講師との連携：今後の地域活動やイベントでの連携や活動内容の幅が広がる可能性を感じる</p> <p>地域鉄道会社との連携：参加者募集（人集め）、地域への移動手手段の確保</p> <p>3. その他の感想。</p> <p>今後の地域活動での幅が広がった、連携を維持・継続していきたい。</p>			
参加人数	一般参加者	人数	合計	
	子ども(乳幼児から中学生まで)	25名	49名	
	子どものご家族または保護者など	24名		
	その他の参加者(学生、地域住民など)	名		
	協働関係者	人数	合計	
	実施 NPO のスタッフ数	6名	22名	
	東京海上日動「社員」ボランティア数	10名		
	その他のスタッフ数（協力者・協働先を含む）	6名		
	イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。			
	東京海上日動「代理店」ボランティアの有無	あった	なかった	
東京海上日動「代理店」一般参加者の有無	あった	なかった		
上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)	あった	なかった		
えちぜん鉄道(株) 自然観察指導員の会				
企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度	企画シートで立てた成果目標	子ども達の 自然への理解が深まっている。生きる力が備わっている。		
	企画シートで立てた成果指標	アンケートでのプログラム満足度が70%以上		
	目標・指標からどんなことが達成できたか	プログラム満足度は80%を超えていた。またアンケート結果からも子供たちの自然への理解や生きる力の備わりは十分に図られたことが推測できる。		
	より成果を上げるための工夫点	プログラムの中で子供たちが興味を示すものについては可能な限り、時間のしぼりを設けない点や子供自身にさせる（とことん）。		

【提出された実施報告シート⑤】

主催団体名	小原 E C O プロジェクト		
イベント タイトル	小さな山里の「夏・探検隊」(みんなで守ろう赤兎山の生態系)		
開催日	2019年9月7日(土曜日) 8:30~15:30 (活動実施時間数 計7時間)		
開催場所	福井県勝山市北谷町小原		
イベント概要 (300字程度)	今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。		
	白山国立公園に属する赤兎山周辺では近年の登山ブームにより低地に繁殖するオオバコが高山域に持ち込まれ繁殖し始めている状況がある。貴重な環境を維持回復するため今回の活動を実施しました。		
活動内容 (300字程度)	当日の活動内容、子どもの様子・言葉・エピソードなど400字を目安に記載ください		
	<p>赤兎山登山及び赤兎山避難小屋周辺での外来植物除去活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登山中：植物や歩道周辺でのガイド ・登山（山登りの）という非日常の空間・体験を通じての自然とのふれあい。 ・外来植物の定義や除去方法の説明（紙芝居）、除去活動 <p>天候に恵まれたことが幸いして思いのほか登山（山登り）初心者が多く山登り体験自体が好評でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白山国立公園（生態系）、ユネスコエコパークの貴重さ自然への理解が深まった。 ・高山域での外来植物（オオバコ）の知識が増えた ・山登りを始めたいと思った（環境に配慮して） <p>外来植物（オオバコ）の除去量 = 17 キログラム（目標：15 キログラム）</p>		
参加者 からの声	アンケートの内容などから、拾い出してください。箇条書きでも結構です。文字制限はありませんが、5つ以上の感想をご紹介します。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種除去のボランティアに参加できて良かった。外来種を持ち込まないように足マットで靴をきれいにしよう！ ・適度な難易度で子供も大人も楽しめ、学べる内容でした。 ・外来植物の除去・駆除の理由など、紙芝居形式で分かりやすかった。 ・外来植物の除去だけでなく、久々に自然の中を歩くことができよい経験になりました。 ・オオバコ茶がおいしかった。 		
プログラムを振 り返って (500字程度)	下記項目に触れていただき、プラスの結果や前向きなコメントを中心をお願いします。		
	<p>3. 子どもたちの様子（どのような気づきが得られたか等）。</p> <p>高山域での生態系や「外来植物」という言葉に気づいた様子。</p> <p>外来植物の除去・駆除の理由に気づいた様子。（除去方法には精細さを欠く）</p> <p>4. 様々な関係者との連携・協働により得られた成果。</p> <p>体験指導での外部講師との連携：今後の地域活動での連携や活動内容が広がる可能性を感じる。</p> <p>地域鉄道会社との連携：参加者募集（人集め）、移動手手段の確保</p> <p>3. その他の感想。</p> <p>今後の地域活動での幅が広がった、連携を維持・継続していきたい。</p>		
参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	3名	15名
	子どものご家族または保護者など	3名	
	その他の参加者(学生、地域住民など)	9名	

	協働関係者	人数	合計	
	実施 NPO のスタッフ数	3名	18名	
	東京海上日動「社員」ボランティア数	12名		
	その他のスタッフ数（協力者・協働先を含む）	3名		
	イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。			
	東京海上日動「代理店」ボランティアの有無	あった	なかった	
	東京海上日動「代理店」一般参加者の有無	あった	なかった	
	上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)	あった	なかった	
	えちぜん鉄道(株) 福井県自然保護センター、白山保護利用管理協会			
企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度	企画シートで立てた成果目標	白山生態系の貴重さや自然への理解が深まっている。		
	企画シートで立てた成果指標	(オオバコ) 外来植物除去量 = 15キログラム		
	目標・指標からどんなことが達成できたか	アンケート結果からも自然への理解や白山生態系の貴重さが伝わったと感じる。また、除去量についても17キログラムの成果を上げることができた。(目標15キログラム)		
	より成果を上げるための工夫点	案内チラシ等に登山知識、情報の詳細な記載		

(2) 地球環境基金

- 年間予算：150,000 円

(ア) 地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 7 月 31 日に地球環境基金 EPO 連絡会に出席し、説明会やユース環境活動発表大会についての EPO の業務説明をうけた。

(イ) 「全国ユース環境活動発表大会」中部地方大会への協力

- 中部地方大会の審査委員として、EPO 中部・協働コーディネーターである、寺田卓二氏（一般社団法人ネクストステップ研究会代表）を推薦した。
- また、中部地方大会（12 月 8 日開催）に EPO 中部から 1 名が参加した。

(ウ) 説明会の開催

- 基金担当者と調整し、「2020 年度地球環境基金説明会」の中部エリア説明会を 10 月 15 日に開催することが決定し、企画検討を行った。
- 説明会では、基金に関する説明と併せて、中部地方環境事務所の担当官による地域循環共生圏と SDGs の概論、EPO 中部スタッフによる SDGs ミニワークショップを実施した。
- また、開催案内チラシを作成し、8 月下旬から参加募集広報を展開した。

① 開催概要

- 【行事名】 地球環境基金助成金説明会 in 中部
【日時】 2019 年 10 月 15 日（火）18:00～20:30
【場所】 ウィンクあいち 会議室 905
（名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）
【参加者】 7 名（5 団体）



② プログラム

話題提供：SDGs と地域循環共生圏

西田 清紀（環境省中部地方環境事務所環境対策課主査）

SDGs ミニ・ワークショップ

原 理史（EPO 中部／中部大学中部高等学術研究所）

2020 年度地球環境基金助成金の説明

質疑応答・個別相談

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部

小林 大 氏
傅 嘉琪 氏

(3) 愛知県コーディネート業務

● 年間予算：1,029,000円

No.	受付日	依頼先	区分	依頼内容	相談業務	コーディネート業務		
					No.	No.	実施日	講師等
1	前年度	名城大学附属高等学校	高校	川の見方、水質調査の方法、分析手法の講義および実習の授業		①	4月27日	㈱日水コン清水康生氏
2	前年度	一宮市環境部環境保全課	行政	市民を対象とした環境に関わる体験講座ができる講座(4回のうちの2回分)の開催		②	5月11日	NIED伊沢令子氏
3	4月1日	(有)アイシープラス	民間	講師登録希望	①			-
4	4月1日	名古屋市立東港中学校	中学校	中学生にもわかりやすく、ゴミの処理について説明してほしい	②			(中部リサイクル)㈱大西氏を紹介
5	5月22日	一宮市環境部環境保全課	行政	子ども体験学習講座の講師の紹介	③			(則竹昌幸氏、浜島鐘利氏を紹介)
6	6月13日	小牧市市民安全課	行政	消費者知識の向上を図る市民講座の講師の紹介		③	8月23日	名古屋産業大学大学院非常勤講師・児玉剛則氏
7	6月18日	㈱青山製作所(大口町)	民間	海岸での清掃活動とプラスチックごみについての講師の紹介		④	9月22日	大須賀哲夫氏(ウミガメの専門家)
8	6月26日	愛知県立横須賀高等学校	高校	総合学習の枠で環境学習に興味を持っている生徒を対象に授業を行ってほしい		⑤	9月18日	EPO中部・原理史氏
9	7月9日	パルスイミング西尾	民間	小学生を対象に行う、生きものの観察や森の基地づくりといった野外学習の講師の紹介	④		9月15日	(長久手のもりの学舎自然学校を紹介)
10	7月9日	パルスイミング西尾	民間	小学生を対象に行う、生きものの観察や森の基地づくりといった野外学習の講師の紹介	⑤		9月22日	(長久手のもりの学舎自然学校を紹介)
11	8月7日	豊橋市立南陵中学校	中学校	梅田川の水質や干潟に関連した話のできる講師を紹介してほしい		⑥	9月9日	㈱日水コン清水康生氏
12	8月7日	日進市立東小学校	小学校	地球温暖化と生物多様性に関わる講師の紹介		⑦	10月3日	県自然環境課 清水美登里氏
13	8月7日	日進市立東小学校	小学校	地球温暖化に関わる講師の紹介		⑧	10月24・25日	富士通㈱村瀬政彦氏
14	8月7日	日進市立東小学校	小学校	ESD/SDGsに関わる講師の紹介		⑨	11月21日	EPO中部・原理史氏
15	8月26日	村瀬政彦氏(個人)	民間	講師登録希望	⑥			-

No.	受付日	依頼先	区分	依頼内容	相談業務	コーディネート業務		
					No.	No.	実施日	講師等
16	9月19日	大府市環境パートナーシップ会議	行政	昆虫や植物等の生き物の観察会の講師の紹介	⑦			(長久手もりの学舎自然学校を紹介)
17	10月18日	一宮市環境部清掃対策課	行政	講師の紹介	⑧			(則竹昌幸氏、山田厚志氏を紹介)
18	11月21日	小牧市健康福祉部長寿・障がい福祉課	行政	高齢者が身近な環境問題について知り、興味をもつための講義の講師の紹介	⑨			(杉山範子氏を紹介)
19	1月6日	半谷美野子氏(個人)	民間	講師登録希望	⑩			-
20	1月14日	USA Girl Scouts Overseas Nagoya	民間	大気汚染に関する実験・測定(自動車の排気ガス)等を伴う学習の講師の紹介	⑪			(岩坂泰信氏を紹介)
21	1月14日	小牧市市民生活部環境対策課	行政	クイズや実験等を通して今地球で起きている気候変動について学び、自分たちに何ができるかを学ぶ授業の講師の紹介	⑫			(村瀬政彦氏、原理史氏を紹介)
22	1月17日	日進アシスト(株)	民間	放課後教室の児童に向けた「水の大切さ」についての講座の講師の紹介(「テーマ君は水なしで生きられるか?」)		⑩	2月20日	エコティーチャー
23	1月22日	岩倉市環境保全課	行政	緑のカーテン講座の講師の紹介	⑬			(堀田英夫氏を紹介)
24	2月3日	一宮市環境部環境保全課	行政	次年度の環境学習講座の企画内容の相談と講師の紹介	⑭			(愛知服育研究会、苔むす会、Bio Garden With等を紹介)
25	2月3日	一宮市環境部環境保全課	行政	次年度の環境学習講座の企画内容の相談と講師の紹介	⑮			(浅野智恵美氏、愛知県地球温暖化防止活動推進センター、河川財団等を紹介)
26	2月4日	東海市環境経済部生活環境課(船島小学校)	行政	小学校での環境学習講座の講師の紹介	⑯			(小野正雄氏、星野智司氏を紹介)
27	3月6日	豊田市藤岡南中学校	中学校	1年生のESD学習(環境)の講師の紹介と学習内容の企画	⑰			(原理史氏を紹介)
合 計					17	10		

1 1 今後に向けて

(1) 課題の整理

ア 基本業務について

① EPO 施設利用・相談対応

- EPO 中部における年間の相談件数、来館者数などが伸び悩んでおり、全般的な利用向上を図る必要がある。
- 特に EPO の利用可能な機能（配架資料の設置、広報協力、打合せスペースの外来者利用、環境関連・ESD 関連の照会・相談対応など）についての周知がまだ充分とはいえない。

② ウェブサイト等による情報発信

- 現在の EPO 中部ウェブサイトはコンテンツの掲載の仕方などに制約があり、業務やイベントを発信するのみのサイトとなっていることから、「見える化プログラム」や「SDGs チェックリスト」の活用促進も念頭に置いたサイトづくりを含めた、情報の受発信のあり方を検討する必要がある。
- 特に「EPO とは」や、その内容に連動したページづくりなど、サイト構成全般の改良が必要との指摘もある。
- 今年度立ち上げた Facebook ページをまだ十分に活用しているとはいえないため、ウェブサイトとの連携や投稿のシェア協力の拡がりなど、SNS をより活かした情報発信・広報を展開する必要がある。

イ EPO 業務について

① 協働コーディネーターの活用展開

- 今年度の協働コーディネーターの会合「地域循環共生圏づくり研究会」において、今後の研究会を会議体ではなく地域循環共生圏に取り組む主体のネットワークとして展開する結論に至っており、EPO 中部・協働コーディネーターの協力を得ながらどのように構築・展開するかネットワークのあり方が検討課題になっている。

② 「活動見える化プログラム」の構築

- 昨年度に構築した「活動見える化プログラム」は複雑なチャート図であったため、わかりやすさ、活用しやすさを重視し、活動分析結果の要点を取捨選択して整理し、さらに地域循環共生圏や SDGs とのつながりを「見える化」する資料として改めて構築した。これを地域循環共生圏づくりや地域活動の活用ツールとして位置づけた上で広く広報・発信し、また、活用した事例・実績をどのように収集・確保していくか検討する必要がある。

③ 協働フォーラム等イベント開催

- 「協働の促進」を目的としたフォーラムを開催しているが、申込者数が毎回 30 人前後と参加者がそれほど多くなく、テーマや対象者の明確化が課題になっている。
- さらに今後は、地域循環共生圏づくりを念頭においた企画検討が重要であり、関連する情報・事例等の受発信の場づくり、取り組む地域（主体）側のニーズの拾い上げ等を行う必要がある。

ウ ESD 業務について

① 「SDGs チェックリスト」の作成

- 今年度完成した「SDGs チェックリスト」について、SDGs ツールとしての活用促進を図ることと、活用方法等について広報し、同時に活用事例・実績の収集、改良ニーズを把握する方法を確保する必要がある。

② ESD ダイアログ等イベント開催

- SDGs、ESD をテーマにしたイベントは参加者も多く好評ではあるが、類似イベントが多くなっていることへの留意が必要である。
- 一方で地域側からの勉強会・ワークショップ開催などのニーズが寄せられており、地域の活動支援センターとして、地域主体と連携した開催も求められている。

③ 地域 ESD 拠点との連携（地域 ESD 拠点への支援）

- 今年度新たに 7 団体が加わり、計 16 団体が地域 ESD 拠点として登録されたが、中部地方 ESD 活動支援センター（EPO 中部）と連携実績のある団体とない団体があり、今後の各団体との関わり方や、センターによる支援のあり方などは検討課題となっている。
- また、団体の活動内容や、得意分野、弱みなどをセンターとして把握していくことも必要である。

(2) 今後の展開

ア 基本業務について

① EPO 施設利用・相談対応の向上

- EPO の存在や機能などが十分に認知されていないため、イベント開催時には EPO のリーフレットを配布するのみでなく、EPO の紹介もプログラムの一つとして設けるなど、PR の場や機会を積極的に活用していく必要がある。
- また、EPO 施設を会場にしたミニ・イベント等を開催し、EPO へ足を運んでもらい、資料の取り揃え状況や、利用可能なスペースなどを実際に見てもらおう工夫などを行うことも考えられる。

② ウェブサイト等による情報発信

- EPO 中部ウェブサイトは、2021 年度に前回のリニューアルから 5 年目を迎えること、また、「地域循環共生圏」や「SDGs」といった新たな発信すべき理念（キーワード）を得たタイミングにあることなどから、ウェブサイトや SNS などを現在求められている機能性に合致した媒体へと強化していく必要がある。
- 特に、地域づくり主体が「EPO は地域循環共生圏づくりや SDGs 活用の支援を行う」という情報に接する入口として、EPO 中部ウェブサイトの再構築が求められる。
- 具体的には、次のスライド資料（EPO 中部運営会議委員への提示資料）で整理したウェブサイトの要リニューアル事項の実践や、活用すべきツール（今年度、EPO や ESD センターが新たに作成したツール）の公開、さらには協働コーディネーターの活用展開などを図り、ウェブサイトの充実化に取り組む必要がある。

ウェブサイトのリニューアルについて

<http://www.epo-chubu.jp/>

サイト全体の再構成

◆「EPO中部とは」を要工夫

(閲覧者視点からの「about us」であること)



- ・ サイト全体の構成を「EPO中部とは」に連動させ、EPO中部がどのように役立つか・どんな支援を行っているかを明示する。

新しい活用ツールの公開

- ①協働コーディネーターの紹介リスト(パンフレット)
- ②活動見える化プログラム
- ③活動支援に資するデータ集(出展可能環境イベント・リスト)
- ④EPO中部関連業務の過去報告書アーカイブ(イベント索引あり)
- ⑤SDGsチェックリスト(ESD業務で作成)

参考) <https://chubu.esdcenter.jp/2019/06/10/sdgschecklistforessd/>

そのほかウェブの機能活用

- ・ Facebook ページとの連動
 - ・ カレンダー機能によるイベント記事の掲載方法を工夫
 - ・ 新しい活用ツール②⑤の活用実績の収集 など
- ※ Googleなど検索サイトへの登録等によるアクセシビリティ向上策も実施予定。

31

イ EPO 業務について

① 協働コーディネーターの活用展開

- 今年度作成した「協働パンフレット」により、EPO 中部・協働コーディネーター全員の活動内容等が掲載されたため、「協働パンフレット」を活用しつつ、地域循環共生圏づくりやSDGsに関わる地域への支援展開の際は、協働コーディネーターの存在もアピールを図る。
- また、「地域循環共生圏づくりネットワーク」を構築・展開する際には、活動者としての視点とコーディネーターとしての視点の両方をあわせ持った人材として、協働コーディネーターにも都度、参加を呼びかけ、EPO への地域ニーズや課題のアンテナとしての機能を求めていくことが考えられる。

② 地域循環共生圏づくりネットワークの展開

- 「地域循環共生圏づくりネットワーク」の構築・展開では、協働コーディネーターや地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業の採択団体、そのほか金融機関、経済団体等との関係構築業務の会合等も含めたネットワークの構築を図っていくことが考えられる。
- 現時点では地域循環共生圏づくりの支援の方向性は未分化のものであるといえるため、ゆるやかなつながりを意味するネットワークとして展開し、その利点を活かし、地域側の取組方や事例の進化などに合わせ、その時節時節で必要とされているニーズ等をEPOがネットワークを通して拾い上げていく仕組みづくりを図る。

③ 地域循環共生圏づくり支援

- 「地域循環共生圏づくりネットワーク」により、中部ブロックのプラットフォーム等の取組主体が集い、全国ブロックの会合ではできない情報（事例や課題等）共有の場を設営していくことが考えられる。
- また、EPO 中部ウェブサイトでは、EPO が地域循環共生圏づくり支援を行っていることをサイト内の「about us (EPO 中部とは)」ページで明示するなど、地域循環共生圏やSDGsの支援を求める地域がコンタクトを取りやすくなるよう工夫していく必要がある。（場合によってはリーフレットにもその旨を記載する。）
- 活動見える化プログラムについては、地域循環共生圏づくり支援ツールとして位置づけることが可能であり、プラットフォーム等の主体に活動見える化プログラムやその具体の分析チャート（今年度のケーススタディ等の分析チャート）を紹介し、必要に応じて主体に対しプログラムを実施し、分析チャートを関係機関やステークホルダー等への説明ツールとして活用してもらうことが考えられる。

地域循環共生圏づくり支援

■ 活動見える化プログラムの活用

- 次年度・地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業採択団体など地域循環共生圏の取組主体／取り組みたい主体を対象に実施。



見える化事例・地域循環共生圏PF事例として公開

（事例として蓄積・掘り起こし→実施希望地域・団体の募集）

■ 地域循環共生圏づくりネットワークの展開

- 2019年度に実施した地域循環共生圏づくり研究会でのワーキングを協働コーディネーターのみでなくPF採択団体ほか、地域循環共生圏づくりに関心のある主体に参加を呼びかけて勉強会を実施。

※ 同様の趣旨の本年度1/31開催セミナー（事務所にて開催）への北陸・信州の参加者が少ないため、北陸・信州でもそれぞれ開催するなど。

■ 地域「循環」のための基盤整備

- 従来の環境活動・地域づくり活動からシフトのために経済・経営の要素をどのように取り入れるかが課題になっている。
- 地域の自立、地域・事業の持続可能性、取組による経済性の確保に向けた環境整備がEPOの役割として求められている。

30

④ 「活動見える化プログラム」の活用

- EPO 中部が支援等する事業・業務を対象に、引き続き、活動見える化プログラムの分析・チャートの作成を実施し、それらを事例としてウェブサイトやイベント等で紹介・公開すると同時に、見える化プログラムの実施を希望する主体を募集することが考えられる。
- そのため、EPO 中部ウェブサイトにおいて、活動見える化プログラムの事例チャートを掲載し、分析を希望する取組主体を募集するページを新たに設ける必要がある。

⑤ 協働フォーラム等イベント開催

- 地域循環共生圏づくりに資するイベントの開催として、地域循環共生圏を普及・啓発するイベント（取組地域の掘り起こしにつながるイベント）と、既に取り組んでいる主体（取り組みたいと考えている主体）を対象にしたセミナーなど取組の支援につながる勉強会の開催が考えられる。

ウ ESD 業務について

① 「SDGs チェックリスト」の作成

- チェックリストについては、完成した基本段階版、事業所活用版のほか、ワークショップ用ツール・パッケージを今年度末に ESD センターウェブサイトにて公開したところであり、次年度はそれらの活用促進と共に、中部地方 ESD 活動支援センター（EPO 中部）主催イベント等で活用していくことが考えられる。
- 今年度の検証ワークショップでは、EPO 中部・協働コーディネーターがファシリテーターとして参加しており、各ツールの使い方やワークショップの進め方をコーディネーターは既知っている。そのため、EPO 施設内等でチェックリスト等を活用したミニ・ワークショップを開催し、協働コーディネーター：進行役の実践、参加者：チェックリストの活用体験（及びファシリテートの方法を学ぶ）などを試行することが考えられる。

SDGsチェックリストの活用展開について

SDGsチェックリストパッケージツールによるESD実践への展開

今後の活用展開(事務局イメージ)

基本段階版

STEP 1

- ・パッケージツールのWeb公開（Webアンケートフィードバック）
- ・使用ガイドの作成（Web掲載）
- ・使用方法の体験説明会の開催

STEP 2（その先）

- ・WS実践者育成支援
- ・子ども版パッケージの開発
- ・関係者による実践研究会支援

事業所SDGs版

STEP 1

- ・チェックリスト使用による検証
- ・使用ガイドの作成

STEP 2（その先）

- ・実践ワークショップの開催
- ・ターゲットに合わせた評価法開発

② ESD ダイアログ等イベント開催

- ESD 及び SDGs をテーマにしたイベントは、地域主体などからの次年度開催ニーズが既に寄せられており、地域側の求めに応じた形での開催が可能となっている。
- また、昨年度・一昨年度とユネスコエコパークをテーマに開催してきており、中部ブロックはエコパーク登録地域が5か所あり、ブロック最多であることが特色となっていることから、引き続き、ユネスコエコパークにおける ESD をテーマにした企画開催も考えられる。

③ 地域 ESD 拠点との連携（地域 ESD 拠点への支援）

- 今年度、地域 ESD 拠点 3 団体にヒアリングを行い、中部地方 ESD 活動支援センターとの連携や支援のニーズの把握を行った。その結果、次スライド資料（中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議提示資料）の支援展開が考えられる。

地域ESD拠点登録団体との連携、団体への支援について

地域ESD拠点とのネットワーク強化に向けて
現場ターゲット別のESD活動と支援の在り方(地域ESD拠点との連携の強化を見据えて)

○ESDの拠点となりうる団体は？

様々な活動団体のESD拠点機能化、登録は後回しでも機能を発揮してもらえればいい。

○その活動団体の得意分野は何か？

どんな対象に何をしているのか。

○その得意分野にとってのニーズは何か？

弱みは何か、何を支援すればよいか。

○その団体が他の主体と連携することで何か生み出せるか？

(事務局イメージ)

案1: 拠点メンバーをメイン対象者とした「身近なESD問題ワークショップ」

案2: 最新情報のメール配信(全国センターからの配信、既存メルマガと重複しない情報)

案3: 登録拠点と連携したESDダイアログ、SDGsセミナー等の開催

付. その他

※地域のニーズに対応するため実施した事項等

■ EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが招聘等された会合・イベント

区分	主体	会議名	開催日	職名	招聘元・事務局
1 愛知	自治体 名古屋市	「なごや環境デー」実行委員会	4/17	委員	名古屋市環境局環境企画課
2 愛知	自治体 愛知県	ユネスコスクール支援会議	①6/5 ②12/20	委員	愛知県教育委員会生涯学習課
3 愛知	自治体 名古屋市	あいち・なごや生物多様性 EXPO (仮称) 運営業務委託事業者評価委員	7/26	選定委員	名古屋市環境局環境企画部
4 三重	ユネスコ協会 津ユネスコ協会	総会後の講演(ESD/SDGs/ユネスコスクール)	05/20	講師	津市教育委員会生涯学習課内津ユネスコ協会事務局
5 愛知	生活協同組合 コープあいち	組員交流会環境分科会話題提供	06/12	講師	コープ愛知事務局
6 愛知	自治体 日進市環境課	日進市職員 ESD 基礎研修	05/28	講師	日進市 市民生活部 環境課 環境政策・ESD推進係
7 岐阜	一般財団 岐阜県公衆衛生検査センター	岐阜県地球温暖化防止活動推進員研修会	06/15	講師	岐阜県地球温暖化防止活動推進センター
8 愛知	株式会社 アイサク	安全大会における省エネ活動推進の意義についての話題提供	07/30	講師	株式会社アイサク省エネ推進会
9 長野	大学 信州大学	信州 ESD コンソーシアム 令和元年度通常総会	08/24	構成員	信州 ESD コンソーシアム事務局(信州大学教育学部会計係)
10 愛知	一般社団 日本体験学習研究所	未来を創る人の「輪」プロジェクト講座第3回	8/31	講師	一般社団 日本体験学習研究所(JIEL)
11 愛知	高校 横須賀高校	地球温暖化問題に関する講義とWS	09/18	講師	横須賀高校
12 愛知	企業 パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社	中部パナソニック連合会	11/19	講師	パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社
13 愛知	自治体 日進市環境課	日進市職員 ESD 研修	11/25	講師	日進市 市民生活部 環境課 環境政策・ESD推進係
14 愛知	企業 パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社	愛知パナソニックショップ連合会新年会議	1/9	講師	パナソニック コンシューマーマーケティング(株)LE中部社 愛知支社 営業推進課
15 愛知	自治体、一般社団 愛知県、環境創造研究センター	地球温暖化防止活動推進員と行政の交流フォーラム	1/14、23	講師等	愛知県地球温暖化防止活動推進センター
16 愛知	自治体 愛知県環境活動推進課	あいち eco ティーチャー 交流会	3/8	講師	愛知県環境活動推進課
17 愛知	任意団体 日進消費生活研究グループ	定例学習会	3/9	講師	日進消費生活研究グループ

※16, 17：新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。

■ 関係構築のため意見交換会や業務に関わる説明打合せ等

区分	実施日	主体	主体の部署・担当者等	EPO 中部以外の同席者等	実施内容
1 愛知	5/28	日進市	市民生活部	中部地方環境事務所	意見交換、情報交換
2 長野	5/23	長野県	林務部信州の木活用課、林務課	中部地方環境事務所	同時解決事業についての説明、今後の協力依頼
3 福井	6/13	福井県	安全環境部	中部地方環境事務所	意見交換、情報交換
4 長野	7/03	飯山市	市長、副市長、経済部農林課、民生部保健福祉課、総務部企画財政課	中部地方環境事務所	同時解決事業、地域循環共生圏についての説明、今後の協力依頼
5 愛知	7/09	なごや環境大学	なごや環境大学実行委員会事務局		「環境白書から実践へ」特別公開講座

	区分	実施日	主体	主体の部署・担当者等	EPO 中部以外の同席者等	実施内容
6	愛知	7/18	中部 ESD 拠点協議会	中部大学国際 ESD・SDGs センター		サステナ政策塾第 2 回参加
7	愛知	7/7	コミュニティ政策学会	第 18 回 学会大会(犬山)事務局		シンポジウム参加
8	中部	7/24	中部地方環境事務所	環境対策課		第 16 回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
9	石川	8/9	金沢青年会議所	(金沢大学・河内氏)	中部地方環境事務所	SDGs キャンプで EPO の紹介
10	長野	8/28	飯田市	企画課林補佐、環境課福澤係長、教育委員会、信州大学水谷先生		意見交換、ダイアログ企画
11	愛知	8/30	中部 ESD 拠点協議会	中部大学国際 ESD・SDGs センター		サステナ政策塾第 3 回参加
12	中部	10/3	中部地方環境事務所	環境対策課		第 17 回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
13	長野	11/16	飯田市	市長、総合政策部企画課	11/16 開催 ESD ダイアログ登壇者	意見交換、情報交換
14	長野	11/29	根羽村森林組合	総務課		地域 ESD 拠点登録に関する情報提供
15	中部	1/9	中部地方環境事務所	環境対策課		第 18 回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
16	中部	3/12	中部地方環境事務所	環境対策課		第 19 回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加

※16：新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。

■ SDGs チェックリストを活用したワークショップの実施

第 1 回 検証 WS	5 月 28 日	日進市役所職員向け ESD 基礎研修にて実施 (10:00~12:00 日進市役所第 5 会議室)
番外	6 月 15 日	岐阜県温暖化防止活動推進センターが主催する地球温暖化防止活動推進員向け研修会として実施 (12:45~15:45JR 岐阜駅ハートフルスクエア G 中研修室)
第 2 回 検証 WS	8 月 29 日	名古屋青年会議所 SDGs 実践委員、山本屋と連携して実施(大久手山本屋 15:00~16:30 90 分) (対象はうどん店の店主、業界関係者、一般市民)
番外	8 月 31 日	日本体験学習研究所(JIEL)★ 講演に合わせて実施 (名古屋市内 13:15~14:15 60 分)
番外	11 月 4 日	ESD ネットワーク地域フォーラム …後半グループワーキングでワーキング用シートを活用
番外	11 月 25 日	日進市役所職員向け ESD 基礎研修にて実施 (日進市役所第 5 会議室 10:00~12:00 120 分) (第 1 回とは別メンバー)
第 3 回 検証 WS	12 月 14 日	西濃環境 NPO ネットワーク★ (大垣市内 16:00~18:00 120 分)

■ ケーススタディ以外で作成した「活動見える化プログラム」チャート
 【ケーススタディ2の同時解決事業・前年度取組のチャート（今年度と比較のため作成）】

活動の経緯チャート 里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

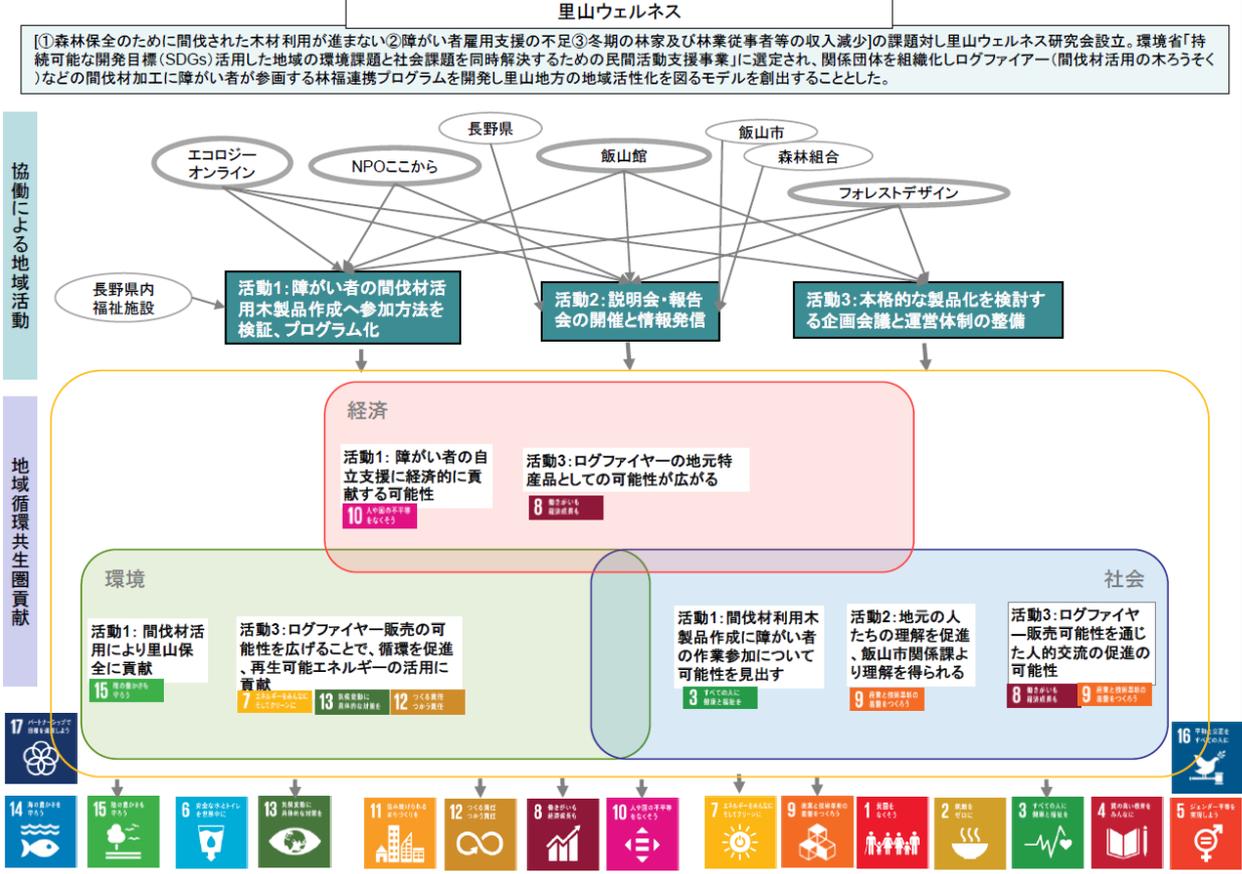
以前の活動	活動①エコロジーオンライン	活動②NPOここから	活動③飯山館	④フォレストデザイン
名称	オンラインによるコミュニティーネットワーク	障がい者自立支援	里山活用による地域活性化	里山活用による保全活動
対象課題	ITオンラインでコミュニティを活性化	障がい者の自立支援	地域活性化	里山の保全と林業活性化
活動内容	ITネットワーク活用によるコミュニティ再生活動	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流のための施設運営	飯山コンシェルジュ、街に居ながらの山や森の中へでの体験教室	森林整備、環境教育、間伐材活用等の活動を展開
活動成果	環境とコミュニティをベースとした他分野にまたがる様々なプロジェクトとアクティビティの創造	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流による自立支援	地域への来訪者増、中山間地への親しみに寄与	奥信濃いいやま里山体験等環境教育プログラムの運営、「いいやまの家」施設整備、丸太ーチログファイアー開発・生産・販売
連携先				
経緯	エコロジーオンラインが飯山の里山活用に着目し、関係者と「里山ウェルネス研究会」を設立、環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定			

鍵となった出来事：①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少の課題に対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー（間伐材活用の木ろうそく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした。

2018年4月～2019年3月 里山ウェルネス

現在の活動	活動1	活動2	活動3
名称	事例調査と実証事業の実施（プログラム開発）	説明会・報告会の開催と情報発信	本格的な製品化を検討する企画会議と運営体制の整備
対象課題	障がい者の間伐材活用木製品作成へ参加方法を検証、プログラム化	地域活動としての理解協力の普及促進	持続可能な経済活動としての製品企画と販売体制の確立
活動内容	飯山特産の木材を活用したログファイアー製作、クラフト体験の材料加工、梱包作業による障がい者の作業プログラム立案、実証	・市民団体、県民、行政職員、学校等を対象とした本事業の説明会と報告会を開催 ・専門家によるセミナー開催 ・本事業内容やプログラムをとりまとめて公表	・ログファイアーの製品化、製品の開発販売活動、パッケージデザイン等議論、継続的な体制構築を検討 ・教育・福祉施設、キャンプ場等を対象に、試作品の試用状況に係るヒアリング調査を実施
活動成果	事例調査（ヒヤリング）を実施、障がい者参加による実証作業を実施し作業可能性を検証	地区役員説明、交流会の実施により、事業内容を関係者に広報周知	ログファイアー説明コンテンツ案を作成
連携先	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、長野県内福祉施設	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、飯山市、長野県、森林組合	エコロジーオンライン、フォレストデザイン、飯山館
評価と課題	障がい者参加の検証が十分ではない。プログラムとして確立させる作業を深化させる必要がある。	情報発信が十分とは言えない。関係者の理解協力が十分とは言えない	自立した経済活動としては未だ不十分。運営組織体制も未整備。

活動の意義（評価）分析チャート 里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業 2018年4月～2019年3月



【ケーススタディ3の南砺市からの依頼で今後の展開をチャート化】

活動の経緯チャート「南砺市版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

南砺市 エコビレッジ構想・エコビレッジ推進事業				
活動No	活動①	活動②	活動③	活動④
名称	森林利活用による再生可能エネルギー利用推進	「発酵バイオマス農業」の推進	桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」の利活用プロジェクト	エコビレッジ部活動
対象課題	森林資源の持続的活用と多面的機能の維持、未利用エネルギー活用とCO2排出量削減	木の皮などのバイオマスの発酵活用	「新しいライフスタイル」を提案する情報発信、「麻布、養蚕、絹織物」など伝統産業・文化の復活、移住、定住者の地域活動の受け皿、住民との交流・コミュニティ形成	次世代の人材育成
活動内容	林地残材等を原料とした木質ペレット生産工場稼働と木質ペレットボイラー等の利用施設稼働(桜ヶ池クアガーデン)による資源循環枠組みの構築	廃棄される木の皮を発酵させて熱とCO2等のガスを発生させ、その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬の暖房を行い一年を通じた温室栽培を可能とする。	合掌造り家屋「かず良」の改修と利活用によるライフスタイル・伝統文化教育情報発信、コミュニティ交流拠点の形成	市内高校生・中学生の活動への支援・循環農業、共学農園、世代交流、地域文化
活動成果	木質ペレット生産工場「木の家」整備稼働「桜ヶ池クアガーデン」の木質ペレットボイラー整備稼働	桜ヶ池地区でビニールハウスを整備、通年の栽培を可能。発酵ガスのCO2により作物が活性化され、廣く、食味の良い作物を取り穫。	ゲストハウスの運営、即伊体験やサテライトオフィス、まちづくりのための若者実習棟の拠点形成、コミュニティカフェ経営、城端納福麻布、福野絹、養蚕などの資料展示・情報発信、「かず良」発酵食や観音講料理などの子ども食堂運営、東京と南砺を結ぶリバーシティなどライフスタイル提案	南砺産材による自然共生住宅と南砺の風土にあった住宅「ソーラー」新しい暮らし方の提案
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ヶ池クアガーデン	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、一般社団法人リバーシティプロジェクト、伝統産業再生事業協議会	市内高校生
経緯	南砺市では、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・運動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考えていた。また、思いを共有するビジョン(構想)を描き、その実現に向けた取り組みを広げていくことが必要と考え、その第一歩としてでは、次世代担い手たちが安心して、地域に誇りを持ちながら暮らし続けたいための「エコビレッジ構想」の策定に着手した。その結果、2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源(人・自然・経済・情報)による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。その中で具体的な事業推進のために「桜ヶ池地区」がモデル地区として設定された。			

2019年「SDGs未来都市・自治体 SDGs モデル事業」に下記内容で採択される。南砺市エコビレッジ構想をベースとし、2030年にありたい姿となる世界に発信する「南砺版エコビレッジ」の実現を目指し、「心豊かな「結」と「土徳」のまち創造／多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造／南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造／文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造」のビジョン実現を加速する取組みを推進する。そのためこれまでのSDGs貢献事業を継続拡大し深化、加速する「環境・社会・経済」の3側面を統合する3つの基盤となる取組みを実施

南砺市エコビレッジ推進課:SDGs三側面(経済、社会、環境)の取組			
活動No	活動1	活動2	活動3
名称	土徳文化により目指す一流の田舎	新たな住民自治・小規模多機能自治	コミュニティファンド・南砺幸せ未来基金
対象課題	次世代につながる地域の誇りの不足	急激な人口減少や高齢化、および依存型住民自治による機能の低下	地域の課題解決と魅力の向上のための資金支援の不足
活動内容	「もったいない」、「おかげさま」から一流の田舎、地域の誇り・本物の「土徳文化」を醸成するため非認知スキルを高める教育を推進する。 【活動】 ・次世代育成プログラム ・SDGsワークショップ	全ての住民参加による真の住民自治を再構築する。なんと未来支援センターが行政とともに地域づくり協議会の運営を支援する。 【活動】 ・住民自治のための人材育成 ・各地区の取組発表会	地域課題や魅力向上のための資金の支援 企業や市民の寄付金・遺贈金、クラウドファンディング、休眠預金等を活用して資金を調達をする。 【活動】 ・地域課題解決などの事業支援 ・資金の調達
活動成果	SDGs、エコビレッジの更なる深化、次世代に伝承、交流人口の増加や土徳文化の発信など	住民自治組織の自立向上、地域一体化による縦割り組織の解消、地域課題の解決、地域住民の意識改革など	住みよい地域の実現、まちづくり人材の育成、定住促進など
連携先	小中学校、高等学校、大学、PTA	なんと未来支援センター、地域づくり協議会	なんと未来支援センター、南砺幸せ未来基金、企業
評価と課題	家庭教育の不足	従来の住民自治の概念の克服	自立的資金概念理解の促進

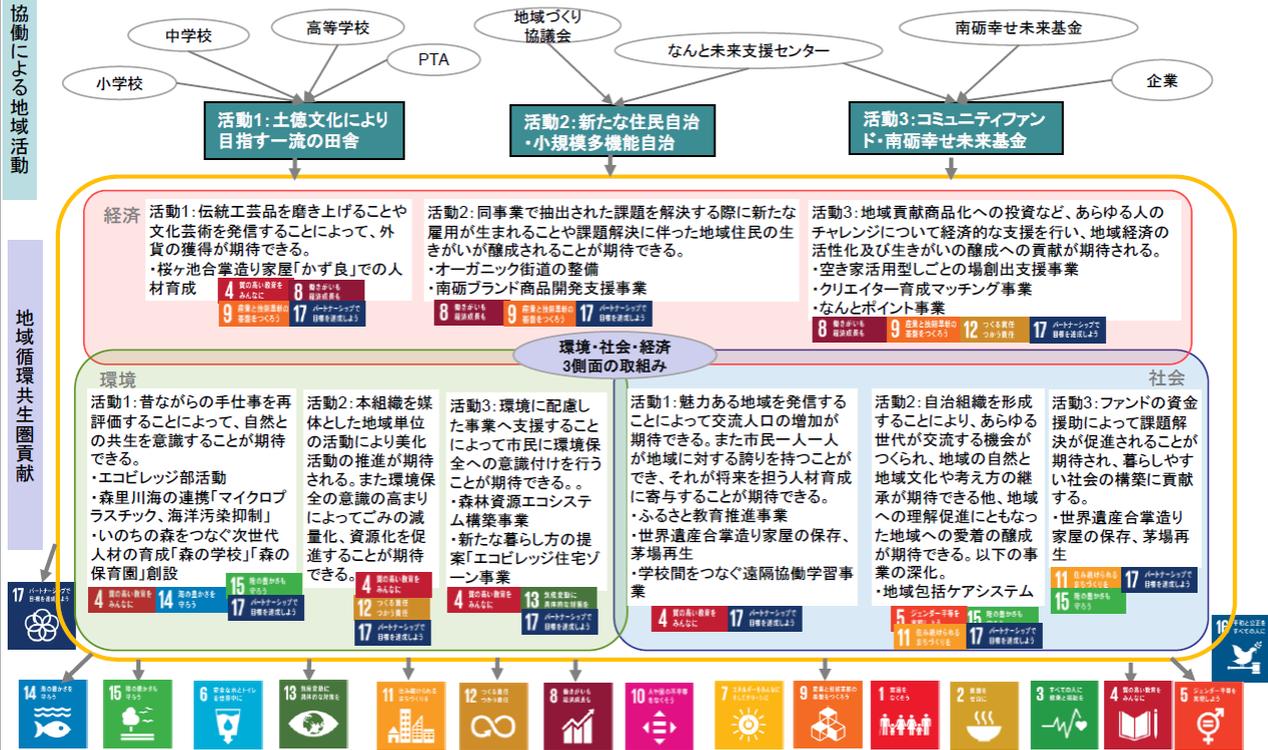
EPO中部:原(2019)

活動の意義 分析チャート(2019～) 「南砺市版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

南砺市SDGs未来都市の取組み

EPO中部:原(2019)

2019年「SDGs未来都市・自治体 SDGs モデル事業」に下記内容で採択される。南砺市エコビレッジ構想をベースとし、2030年にありたい姿となる世界に発信する「南砺版エコビレッジ」の実現を目指し、「心豊かな「結」と「土徳」のまち創造／多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造／南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造／文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造」のビジョン実現を加速する取組みを推進する。そのためこれまでのSDGs貢献事業を継続拡大し深化、加速する「環境・社会・経済」の3側面を統合する3つの基盤となる取組みを実施



【「8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務」の連携取組をチャート化】

活動の経緯チャート

地域内エコシステム@宇奈月

一般社団法人でんき宇奈月

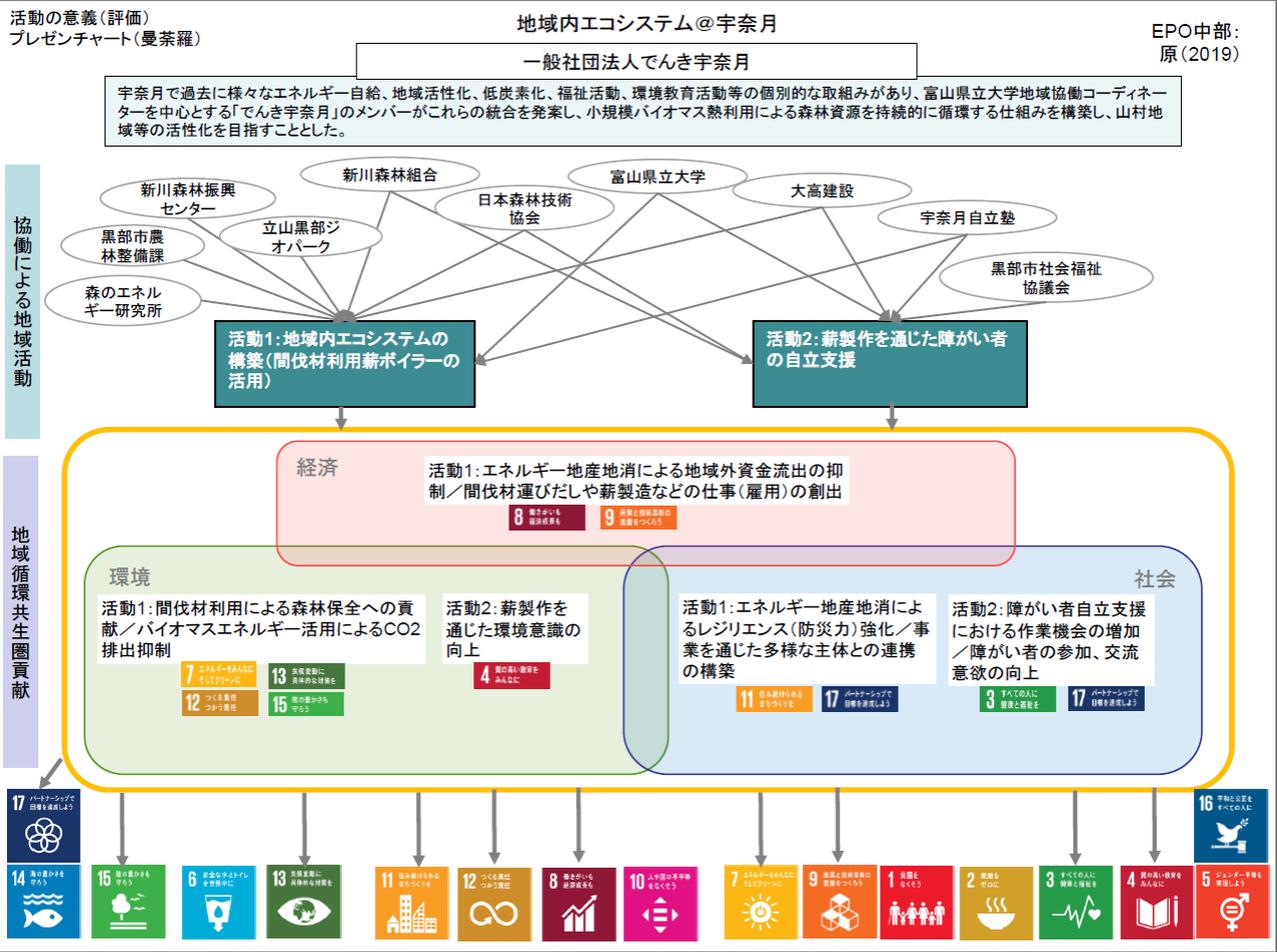
以前の活動	活動①	活動②	活動③	活動④
名称	秘湯に行くにも電気自動車で:電気自動車レンタル	温泉街での低速電気バスの運行	小水力発電の導入	温泉街パークアンドライド
対象課題	秘湯を観光資源とした地域活性化/CO2排出の抑制	温泉を観光資源とした地域活性化/CO2排出の抑制	CO2排出の抑制	道路の混雑の緩和/CO2排出の抑制
背景				
活動内容	電気自動車のレンタル事業	温泉街における低速電気バスの導入・運行事業	らせん水車による小水力発電の導入	
活動成果		観光シーズンに電気バスを運行し、温泉街の目玉の一つとなっている		
連携先				
経緯	一般社団法人でんき宇奈月は地域にあるエネルギー資源を活用して地域を元気にしようとしている団体として宇奈月温泉を拠点に活動中。			

鍵となった出来事:
宇奈月で過去に様々なエネルギー自給、地域活性化、低炭素化、福祉活動、環境教育活動等の個別的な取組みがあり、富山県立大学地域協働コーディネーターを中心とする「でんき宇奈月」のメンバーがこれらの統合を発案し、小規模バイオマス熱利用による森林資源を持続的に循環する仕組みを構築し、山村地域等の活性化を目指すこととした。

一般社団法人でんき宇奈月

現在の活動	活動1	活動2
名称	地域内エコシステムの構築(間伐材利用薪ボイラーの活用)	薪製作を通じた障がい者の自立支援
対象課題	・間伐材、林地間伐材が活用されない ・地域の木質バイオマスの活用がされない	・障がい者の自立支援としての外部での作業する機会が少ない
活動内容	地域の方々と協力して、木材を薪に地域の暖房・給湯に活用する仕組みを作り、地域経済を回す取組みを構築し実験的に実施した。具体的には、朝日町の林の間伐材・林地残間伐材を森林組案の協力を得て運搬し、障がい者の協力を得た作業により玉切り薪割りを行い、乾燥、運搬し、「立山黒部ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオ」に設置した薪ボイラーの燃料とする実験を行った。	間伐材を薪に加工する作業に取組むとともに、その薪をボイラーにくべる作業を行うことにより自らの作業の社会への貢献を体感した。
活動成果	間伐材の運び出し、薪への加工に障がい者が協力いただく作業、牧ボイラーの燃焼は順調であり、地域協働事業として運用できることが実証された。	力の必要な作業や細かい作業などの特性に応じてそれぞれ分担ができた。他の人との接触や作業を通じてモチベーション向上が見られた。
連携先	新川森林組合、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、森のエネルギー研究所、黒部市社会福祉協議会、黒部市農林整備課、新川森林振興センター、立山黒部ジオパーク	新川森林組合、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、黒部市社会福祉協議会
評価と課題	小規模バイオマス循環の仕組みは実証された。今後薪ボイラーの導入や間伐材運び出し量など、バイオマスエネルギー量の拡大が課題。	継続して作業が実施できるか、阻害要因がないかを検証することが課題。

EPO中部:原(2019)



平成 31 (2019) 年度
中部環境パートナーシップオフィス運營業務
年間報告書
(2020 年 3 月)

発行： 環境省中部地方環境事務所
〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2
TEL : 052-955-2134 / FAX : 052-951-8889
URL : <http://chubu.env.go.jp>

作成： 中部環境パートナーシップオフィス
(運営受託：一般社団法人環境創造研究センター)
〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4F
TEL : 052-218-8605 / FAX : 052-218-8606
URL : <http://www.epo-chubu.jp>

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。